



地域連携・貢献センター ニュースレター

Vol.3

地域とのつながりをさらに積極的に進めていきます

地域連携・貢献センター長 小川 喜道

地域連携・貢献センターは、コロナ禍にあって社会のあり様も変化した、この2020年度に発足しました。しかし、だからこそ新たな連携や協働を探る好機と捉えて活動してまいりました。

おかげさまで、文部科学省・私立大学等総合支援事業の「地域社会への貢献」(タイプ3)に採択されましたので、次年度も大学内外のご協力を得て、一層の成果を上げていきたいと思っております。

今回、情報学部の五百蔵先生と対談をさせていただき、地域とのつながりに大切な考え方の示唆を受けました。ぜひ、お読みいただければ幸いです。

Page

KAIT 地域連携・貢献事業の紹介

- 五百蔵研究室の流儀
対談 五百蔵教授 x 小川センター長 1・2・3

事業報告 / Topics

- 2020 年後事業報告 . . . 4
- Topics . . . 4

KAIT 地域連携・貢献事業の紹介

五百蔵研究室の流儀 (五百蔵イズムの発露)

五百蔵 重典教授：五百蔵と書いて、「いおろい」と読む。
主な研究分野：プログラミング言語、仕様記述言語、
ソフトウェア開発手法

神奈川工科大学の地元、厚木市森の里4丁目の皆さんと2009年から、地域防犯システムに取り組まれている五百蔵教授をお招きして、地域連携について地域連携・貢献センターの小川センター長がお話を伺いました。

相談メールがつかないだ10年超のお付き合い 「森の里4丁目地域の目防犯システム」の取り組み



おがわ

五百蔵先生は、情報系の研究をされていますが、一方で森の里4丁目の住民の皆さんと10年以上にわたって、お付き合いをされていると伺いました。今日は地域貢献の切り口で、いろいろとお聞かせください。

～ 始まりは自治会長からの学長への相談 ～

始まりは、2009年9月頃に森の里4丁目の当時の自治会長さんから「携帯メール配信システムを作成したいんですが、作成ツール、プログラムがあれば教えてください」との小宮学長への相談でした。

そこで学長から学内の相談ルートを通じて、五百蔵研究室と田中博研究室に話がきました。



いおろい

おがわ 五百蔵先生や田中先生が森の里4丁目にお住まいになっている関係かなと思っていましたが、地域の方からの大学へのご相談だったんですね。

いおろい 私自身は他市に住んでいますが、神奈川工科大学の地元ということで学生と地元のお店で食べたり、飲んだりとお世話になっていますし、地元での就職を選ぶ学生もいますので、厚木市への地元愛が正直あります。▷

▷ **いおろい** 森の里4丁目の皆さんとのお付き合いのきっかけは、携帯電話を利用した地域防犯システムをつくりたいのでICTのアドバイスが欲しいとの相談でした。

当時の森の里4丁目自治会長さんが安全・安心に暮らせる地域づくりのために、防犯について専門家の意見を聞いたところ、「空き巣は地域住民の目を恐れている」とのアドバイスを受け、ICTの活用によって、自分たちで地域の安全・安心につなげることが目的とのことでした。

行政の防災無線など不審者等の情報を伝えるサービスはあっても、範囲が広すぎ、活用が難しい。それなら、自分たちで、「住まい周辺に限った、人物、車、物といった簡単な不審情報」をお年寄りやICTに不慣れな人でも簡単に取り扱え、使いこなせるシステムを作成し、案内したいとのことでした。

システム開発をして、2011年3月にプレスリリースをしました。システムを広めなければ活用していただけないので、年2回自治会のお祭り(サマーフェスタ、餅つき大会)に参加して、携帯電話の取り扱いが苦手な方への支援を続けて、気が付けば10年以上がたっていました。

* 2ページへ続きます▷

相談メールがつないだ 10 年超のお付き合い
「森の里 4 丁目地域の目防犯システム」の取り組み 対談：五百蔵教授 × 小川センター長

▶ 1 ページからの続きです。

いおりい 研究室としての支援はシステム開発という間接支援と携帯電話の取り扱い支援という直接支援の 2 つがあります。

間接支援のシステム開発は主に学生が担っていて、携帯電話の移り変わりに伴って、ガラケー版、スマホ版、アプリ版、Line 版と進歩させてきました。地域の皆さんへの直接支援は、年に 2 回のお祭りの時の、アプリを入れたり、登録作業といったお手伝いです。神奈川工科大学の幟旗をもって、田中博先生や情報センターの赤野さんや学生も一緒に出掛け、お祭りを楽しませてもらって、最後の打ち上げまでいて、ごちそうになって帰ってくるという感じです。

おがわ 広報あつぎやタウンニュースで拝見したのを覚えてます。また、森の里 4 丁目に行ったときに、各家の入口に森の里 4 丁目防犯ネットワークのシールが貼ってあって、神奈川工科大学の名前が入っていたのと、よく考えられたデザインなので印象に残っています。幟旗もいいですね。

10 年以上のお付き合いとなると自治会長さんも変わられますよね。

いおりい 自治会で引き継いでくれています。お祭りに行くに必ず、自治会がコーナーを準備してくれています。2015 年のシステム登録者数は 134 世帯、24% です。この 1～2 年は使いやすい Line のお友達登録機能を使ったシステムを開発し、約 30 名の自治会の班長さんに試験運用してもらって、さぁ！本格導入しようかというところに、コロナ禍で頓挫しています。



お祭りには学生も参加してアプリ操作のお手伝い

～ 防犯対策から防災対策、見守り支援へ ～

いおりい 話は膨らんでしまうのですが、自治会では安否確認や電子回覧板にも活用したいと希望されています。森の里 4 丁目は被災時には家の外に黄色のハンカチを表示することで安否確認をすることになっているのですが、班長さんたちの確認のための行き来の負担が大きいことから、効率的な安否確認の方法として活用したいということです。

おがわ 森の里 4 丁目の防災への取り組みも地域連携災害ケア研究センターで話題になったことがあります。防災、災害時に自分がどこにいて、どういう状態であるかという安否確認と防犯、不審情報が Line では両立できるわけですね。

いおりい システムを広め、普段から使ってもらうことが大切です。防災無線のように多くの人に伝えられるといいなと思っています。

おがわ 防災無線は、当学の地域連携災害ケア研究センターの上田先生が厚木市危機管理課との協働で研究していますが、聴こえにくい地域も多いので、聴覚と視覚の両方をつかって、様々な手段で確認できるいいですね。

いおりい Line なら登録していれば、例えば離れたところにいる子どもの安否を親が確認できるということもできます。

～ 主体は地域 ～

おがわ それにしても、10 年続いているっていうことがすごいことですよ。

いおりい ここはちょっと誇ってもいいかなって思っているところです。大学の地域貢献は、1 年とか 2 年とか期限を決めてという場合が多いです。しかし、この「森の里 4 丁目地域の目防犯システム」は 10 年以上続いています。それは、地域住民の方の理解があって、意識がとても高いということが大きいと思います。そして、ICT で何でも叶えて欲しいといううんじゃなくて、「主体はあくまでも地域にあって、僕ら大学側は精一杯頑張るけれども、地域の住民の方が実現したいことを実現するお手伝いしかできません。運用面がすごく大変だけれど、それを決めるのは僕らではない」ということを理解してくれていることが大きいんです。



自治会長・副会長へのシステムの説明は学生が行いました



お祭りのときに、班長さんにインストールしてもらい試してもらった画面です。

おがわ それでも 10 年続いているっていうのはすごいですよ。

いおりい ありがとうございます。今はだいたい地域貢献とか言われていますけれど、僕は、論文を書くとか研究費をもらうだとかの色気を出さず、手弁当で地域のお役に立てればと思ってやってきました。

おがわ まさしく地域貢献ですね。システム開発だけのお付き合いだと、開発が終わればお付き合いも終わってしまいますが、関係性ができていくから 10 年も続いているんだと思います。いいですね。大学の存在意義としても、大切なことです。地域に開かれた大学の在り方だと思います。また、それが成り立つのは五百蔵先生の意識や学生たちの関わりということだと思います。

いおりい 私の気持としては信用金庫が地元尽くすように、大学も地元貢献するのが、あるべき大学の姿だと思っているので、また、森の里 4 丁目の皆さんは意識が高く、主体性をお持ちなので継続できていると思います。

おがわ 地域と大学との連携という点では、大学が地域に知識や技術を提供するという関係になりがちなんですけれど、五百蔵先生は地域に寄り添い、付き合いながら、時代の変遷によるニーズに応えるプロセスを大切にされている。

いろいろな考えのある人々で構成される地域の自治会と 10 年以上にわたって地域貢献を実践されている五百蔵先生にお話を伺いました。大学と地域のかかわり方、主体は地域であること、地域住民の総体の意見を汲み取る、研究室ができること・したいことをするのではなく、地域が実現したいことを実現させるための支援を行うこと、信用金庫のように地域課題に向き合うこと等々・・・地域連携・貢献のための名言は五百蔵先生の生き方でもあったと思います。



不審情報地点から半径 300 メートルの世帯全部と即時に不審情報の共有が出来る。

～ 五百蔵研究室の流儀 ～

いおりい 私達は ICT の支援はできるけれど、主体にはなれない。地域の課題は、すぐには解決できないことが多かったり、時代背景で変容することがあったりするので、結果をすぐに求めるのではなく関係性を築くことが大切だと思います。

おがわ 地域の方の意識やモチベーションを押し量りながら、協力をしていく、お付き合いをしながらニーズを探り、住民総体への協力内容を見極めるといった五百蔵先生の地域貢献の流儀を伺いました。

いおりい 押し付けはいけないので、意見交換をしながら正直に言える信頼関係をつくっていくというのが 10 年かけて見出したことかも・・・。



おがわ

やれることはいっぱいあって、いっぱいあるストックの中から、ニーズに応じて、地域が必要としている支援を取り出している。

そうだとカッコいいですね。これからの活動の方向性として、Line 版のシステム機能を広げて、電子回覧板で普段から馴染み、有事に活用できるようできるいいなと思います。



いおりい

2020年度 地域連携・貢献センター 事業報告

事業計画

神奈川工科大学工学教育研究推進機構 / 地域連携・貢献センターは開設にあたり、地域連携推進ワーキングで積み上げてきたプランを基に、計画的な事業展開を図るため、神奈川工科大学の中期目標・計画及び2020年度計画に呼応する年度計画を策定しました。

- 重点項目
 - ・ 地域連携・貢献センターの基盤整備
開設に伴う備品整備及び中長期計画の策定
 - ・ 広報活動
logo パンフレット
ホームページ ニュースレターの発行
 - ・ 地域連携災害ケア研究の推進
地域連携災害ケア研究センターとの連携
- アクションプラン
 - ・ 地域連携・貢献センターの基盤整備
 - ・ 開設に伴う備品の整備・・・部屋の確保と初度調弁
 - ・ 中長期計画、年度計画の策定と進行管理

広報



CENTER for
REGIONAL COOPERATION
and CONTRIBUTION

【logo】地域連携・貢献センターを覚えてもらうためにlogoを定めました。相対する色をつなげる中庸バランスを持つ緑色のグラデーションでCの連なりとつなぎ手を描き、調和や安定のイメージの想起を期待しました。

ロゴ『3つのCとつなぎ手』・・・3つのCにはCHALLENGE(挑戦)、CHANCE(好機)、COMMUNICATION(話し合い)の大事なCを重ねました。当センターは人と人とのコミュニケーションを大切に、さまざまな立場の方々と手を携え、地域のニーズに応じていきます。今日的な課題に取り組み、豊かな社会づくりに貢献するために必要な「つなぐ」「つなげる」そして「つながる」を表しています。

【パンフレット】



【ニュースレター】創刊号(9月)、Vol.2号(12月)を発行



【ホームページ】URL <https://cp.kanagawa-it.ac.jp/ccc/>

事業実績

【災害対策】

- 地域連携災害ケア研究センターとの連携
- 産学官民による地域協働ミーティング
- 厚木市危機管理課との連携(避難所 防災無線等)
- 地域自治会との連携(総合防災訓練等)

【私立大学等改革総合支援事業】

- タイプ3(地域社会への貢献)資料の作成

【厚木市大学連携・協働協議会】

- 5大学連携メッセージ、ポスター制作支援
- Zoom会議開催調整

【相談実績】2021年3月16日現在

- 相談受付総数 22件 うち 個人：7件 団体：15件

○ 相談事例

<個別相談>

- ・障がいのある学生に対する「大学としての支援」と「公的支援」の調整

<団体相談>

- ・フレイル(加齢による機能低下)対策事業連携
- ・芸術大学の研究室からの「卒業制作デザインに対しての工学的知識・技術の助言等」の調整
- ・里山開発

Topic

神奈川工科大学は、文部科学省が実施する「令和2年度私立大学等改革総合支援事業」において、タイプ1(特色ある教育の展開)及びタイプ3(地域社会への貢献)に選定されました。(文部科学省：令和3年2月15日付通知)



編集後記

虹が繋いでくれた大学と地域の「かけはし」

2月15日の雨上がりの青空に二重の虹!!ダブルレインボーは吉兆の知らせとの言い伝えのとおり、文科省の私立大学等改革総合支援事業のタイプ3(地域社会への貢献)が選定されたとの通知をいただきました。神奈川工科大学の長年の社会貢献の実践が評価されたことと、とても嬉しく思います。

幸世

神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

地域連携・貢献センター

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030

TEL 046-291-3153 FAX 046-291-3262

E-mail chiiki-koken@ccml.kanagawa-it.ac.jp

URL <https://cp.kanagawa-it.ac.jp/ccc/>

[kait]で検索するとHPにアクセスできます。

kait

検索